濃昼山道

【ごきびるさんどう】

Gokibiru Sando

悠久（ゆうきゅう）の歴史と森の息吹を感じながら辿（たど）る古山道

濃昼側入口国道

濃昼側入口

ルーラン休憩所

水準点

滝の沢側入口

滝の沢側入口国道

峠頂上の看板

対岸より濃昼峠を望む

大沢に架かる三本橋

幕末の動きと濃昼山道

1850年頃	蝦夷地周辺に頻繁に外国船がやって来る。
1853年	米ペリーが浦賀に来航。露プチャーチンが長崎に来航し、国境の確定と開港を迫る。
1854年	日米和親条約締結（3月）。箱館奉行を設置（6月）。日露和親条約を締結（12月）。
1855年	蝦夷地全域を幕府の直轄統治とする。
1857年	箱館奉行堀利熙一行、東西蝦夷地・樺太を巡見。松浦武四郎も同行し、濃昼山道を通行。
1859年	幕府は、庄内藩に西蝦夷地の警備を命ずる。
1860年	初代奉行松平舎人が赴任。
1868年	戊辰戦争勃発。庄内藩は引き揚げる。

明治中頃に当時の濃昼の網元・木村源作氏が、自分の漁場にかようヤン衆たちのために、一万円を出して山道の中間部に山道をつけ直した。と孫の木村源作さんが語った記録が残されている。（出典：昭和38年10月16日付・北海道新聞夕刊記事より）

濃昼山道【断面図】

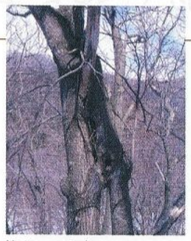
■全長：8km　■高低差：357m

■所要時間：濃昼入口から濃昼峠までの上り＝約1時間30分（戻り約1時間）
濃昼峠から滝の沢入口までの下り＝約4時間
※所要時間は濃昼側入口を起点とした参考所要時間

山道を彩る植物たち

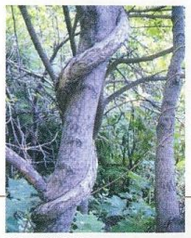
キバナノアマナ

エゾタンポポ


抱きついた木

クルマユリ

キクザキイチゲ


苦しそうな木